

平成 19 年度 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
による委託研究『言語学・応用言語学に基づく、外国語能力
の検査、判定、評価法の開発』（研究機関代表者：長谷川信子
研究機関分担者：井上和子、小林美代子、堀場裕紀江）

2007 年度 研究活動報告

本研究は、2004 年 12 月より 5 年間の計画で進行中の他大学
（首都大学東京、東北大学、広島大学、他）との共同研究プ
ロジェクト「脳科学と教育」タイプ（II）『言語の発達・脳の
成長・言語教育に関する統合的研究』（研究代表者：首都大学
東京大学院・萩原裕子教授）におけるサブ研究領域としての研
究である。プロジェクト全体としては、言語の発達と脳の発
達の関連を教育との関わりも含め、言語テスト、脳機能計測
などにより明らかにすることを目指しているが、CLS 担当上
記サブ領域では、早期英語教育で得られる英語力の評価と判
定を担当し、昨年度までに、その中核的基盤となる「早期英
語教育に関わる語彙」を調査し、1000 語程度の「早期英語リ
スト」を編纂し、それを基に「早期英語語彙テスト」を開発
した。それらについては、2006 年度、2007 年度に、国内外の
学会等で発表した。語彙リストとその編纂過程については、
本紀要に町田、小林、長谷川が共著論文としてまとめている
ので、参照されたい。

「早期英語語彙テスト」については、今年度は、東京周辺
の公立小学校、児童英語教育機関、個人申込者の協力を得て、
総勢 700 名余りに、「日本語語彙テスト」((独)メディア教育
開発センター・小野博教授監修)、「児童の言語環境調査アン
ケート」と合わせて実施した。今後、それらのデータを集計、
分析し、児童の英語を含めた言語力の判定、評価、発達の要
因などを探る計画である。